

平成29年度 ルール改正点・修正点について

1 6人制改正点・修正点

本競技規則は、2016年10月4日から7日にアルゼンチン・ブエノスアイレスにて開催されたFIVB総会においてルール改正がないことが確認された後、2017年1月18日にFIVBより「ルールブック2017-2020」として公表されたものである。

それをもとに、2017年度版ルールブックの修正点を以下のようにまとめた。

また、付録に掲載した「ケースブック」のルールの取り扱いについても一部修正した。

以下が本年度の主な修正点である。

●修正点（1）

1.1 規格 (DIMENSIONS)

(略)

国際バレーボール連盟（以下FIVB）世界・公式大会では、フリーゾーンの幅はサイドラインから5m、エンドラインから6.5mなければならない。フリープレー空間は競技エリアの表面から最小限12.5mの高さが必要である。

2.5 支柱 (POSTS)

2.5.1 ネットの支柱は、サイドラインの外側から0.5～1mの位置に設置される。2.55mの高さで、高低の調節が可能なものとする。（第3 図）

すべてのFIVB世界・公式大会では、ネットの支柱はサイドラインの外側1mの位置に設置し、パッドで保護しなければならない。

4 チーム (TEAMS)

4.1 チーム構成 (TEAM COMPOSITION)

4.1.1 (略)

FIVB世界・公式大会のシニアカテゴリーでは、14人までの選手が記録用紙に記載され試合でプレーすることができる。（監督を含む）最大5人のベンチスタッフは、監督自身によって決定され、記録用紙に記入され、0-2 (bis) に登録される。

チームマネージャー、またはチームジャーナリストは、ベンチにも、コントロールエリア内のベンチ後方にも座ることができない。

FIVB世界・公式大会に参加するすべてのドクターまたはチームセラピストは、公式なチーム構成員の一員でなければならない、また事前にFIVBから資格認定を受ける必要がある。しかし、FIVB世界・公式大会のシニアカテゴリーでは、ドクターとチームセラピストがベンチスタッフの中に含まれていない場合は、競技コントロールエリア内のフェンス付近に座り、審判員に要請されたときに限り、選手への緊急的な医療処置を行うことができる。

チームセラピストは、（たとえベンチにいなくても）公式プロトコール開始前まではウォームアップに参加してもよい。

各大会での公式レギュレーションについては、大会ごとのハンドブックで示される。

4.3.3 選手のジャージには、1から20までの番号を付けなければならない。

FIVB世界・公式大会のシニアカテゴリーで、人数の多い選手団ではより大きな番号を付けてもよい。

4.5 禁止される物 (FORBIDDEN OBJECTS)

4.5.3 圧迫用サポーター（パッド入りの負傷部を保護する装具）は、保護やサポートのために着用することができる。

FIVB世界・公式大会のシニアカテゴリーでは、これらのサポーターはユニフォームの部分と対応した同じ色でなければならない。黒や白または中間色も使用してもよい。

5.2.2 試合開始前、監督は選手の名前、番号を記録用紙のチーム選手欄に記入するか、記入されたものを確認した後に、サインする。

5.2.3.4 他のチームメンバー同様、コート上の選手に指示を与えてもよい。監督は、試合を妨げない、または遅延させない限り、アタックラインの延長線からウォームアップエリアまでの、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。

FIVB世界・公式大会では、試合を通して、監督がその役割を果たすのは監督制限ライン後方に限定される。

6.1.1 得点

チームは以下のとき1点を得る：

6.1.1.1 ボールを相手コート上に落とすことに成功したとき。

6.1.3 ラリーと完了したラリー

ラリーとは、サーバーにより打たれたサービスの時点から、ボールがアウトオブプレーとなるまでの、一連のプレーの動作である。完了したラリーとは、一連のプレーの動作の結果で1点が与えられたときをいう。これには以下のものが含まれる。

… ペナルティの適用によって

… ディレイインサービス（サービス時8秒ルールの反則）によって

7.3.2 各セットの開始前、監督は、スターティングラインアップを記入したラインアップシートを提出しなければならない。ラインアップシートは正しく記入され、サイン後、副審または記録員に提出される。もしもタブレット（電子端末装置）を使用する場合は、それを介して、直接eスコアラーに送信される。

7.3.5.4 記録用紙のチーム選手欄に登録されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、相手チームの得点はそのまま有効で、さらに1点と次のサービスが与えられる。間違いのあったチームは、登録されていない選手がコートに入った時点から得たすべての得点とセット（必要であれば0-25として）を失い、修正したラインアップシートを提出し、登録されていない選手がいたポジションに、登録されている選手を新たにコート上に送らなければならない。

7.5 ポジションの反則 (POSITIONAL FAULT)

7.5.1 サーバーによりボールが打たれた瞬間に、いずれかの選手が正しいポジションにいない場合は、そのチームはポジションの反則をしたことになる。選手が不法な選手交代をしてコート上において、試合が再開された場合は、不法な選手交代によるポジションの反則とみなされる。（規則7.3, 7.4, 15.9）

7.7 ローテーションの反則 (ROTATIONAL FAULT)

7.7.1 サービスが正しくローテーション順に行われなかったとき、ローテーションの反則となる。その場合は次のような順序の結果となる：

7.7.1.1 記録員がブザーによって試合を止めた場合、相手チームに1点と次のサービスが与えられ

る。

もしも、ローテーションの反則により始まったラリーが完了した後に、そのローテーションの反則が指摘された場合は、そのラリーの結果に関係なく、相手チームに1点だけが与えられる。(規則6.1.3)

7.7.1.2 反則をしたチームのローテーション順は正しく直される。(規則7.6.1)

8.4 ボール“アウト”(BALL “OUT”)

ボールは、次のとき“アウト”となる：

8.4.1 フロアに接触したボールのすべての部分が、完全に区画線の外であるとき。

9 ボールをプレーすること (PLAYING THE BALL)

各チームは、(規則10.1.2を除き)それぞれの競技エリアとフリープレー空間の中でプレーしなければならない。

しかし、ボールは、自チーム側のフリーゾーンの外から取り戻してもよい。

11.3.1 ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。

ボールをプレーする動作の中には、(主に)踏み切りからヒット(またはプレーの試み)と安定した着地、新たな動作への準備が含まれる。

11.4.4

・ネットをつかんだり、握ったりすること。

ボールがプレーされているときに、ボールの近くにいるいかなる選手やボールをプレーしようとしている選手自身も、たとえボールに触れなくてもボールをプレーする動作中とみなされる。

しかし、アンテナ外側のネットに触れることは反則ではない。(規則9.1.3を除く)

12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かし、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、ボールがネット垂直面に到達するまでにサーバーとボールのコースの両方を隠すことでスクリーンが形成される。(第6図)

15.2.3 同じチームによる2つの別々の選手交代の要求の間には、完了したラリーがなければならない。(例外：負傷によってやむを得ず選手交代をした場合、または退場、失格の場合)(規則15.5.2, 15.7, 15.8)

15.4.4 (テクニカルタイムアウトを含む)すべてのタイムアウトの間、プレー中の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。

15.10.3c 選手交代の要求は、記録員のブザー、または副審のホイッスルにより通知される。副審が選手交代を許可する。

FIVB世界・公式大会では、選手交代を容易にするため、ナンバーパドルを使用する。(タブレット【電子端末装置】を使用する場合も含む)

15.11.1.3 インプレー中の選手の負傷や病気の場合を除いて、同じチームが同じ中断中(次のラリーが完了する前)に2回目の選手交代を要求すること。(規則15.2.2, 15.2.3)

23.3.2.3.

h) 相手コートに向かうボールの全体またはその一部が許容空間外側のネット垂直面を通過したとき、あるいは主審側のアンテナにボールが触れたとき。

i) サービスボールや3回目のヒットされたボールが主審側のアンテナ上方や外側を通過したとき。

24.3.2.7 相手コートに向かうボールの全体またはその一部が許容空間外側のネット垂直面を通過したとき、あるいは副審側のアンテナにボールが触れたとき。（規則8.4.3, 8.4.4, 第5図a）

24.3.2.8 サービスボールや3回目のヒットされたボールが副審側のアンテナ上方や外側を通過したとき。

25.2 責務 (RESPONSIBILITIES)

記録員は、副審と協力しながら、規則に従って記録用紙に記入する。

記録員は、規則に従っていないと判断したときは、ブザーやその他の音の出る用具を使い、責務に基づき、主審と副審に合図を送る。

25.2.1.2 それぞれのチームのスターティングラインアップをラインアップシートから記入する（または送信された電子データを確認する。）

もしもラインアップシートが時間どおりに受け取れない場合は、直ちに副審に知らせる。

26.2.3.2 記録用紙にサインする。

eスコアを使用するFIVB世界・公式大会では、アシスタントスコアラーは記録員とともに副審に対し選手交代の通知、チームの中断の要求のコントロールをし、リベロリプレイメントの確認を行う。

* 第9図の中に「軽度の不法な行為」の欄が追加された。

不法な行為に対する警告と罰則段階表

* ハンドシグナルの⑳のタイトルが変更された。

選手のタッチネット、サービスボールがアンテナ間のネットに触れネットの垂直面を越えないとき

【第3編】用語の定義

ボールリトリバーとモッパー (BALL RETRIEVERS AND MOPPERS)

ボールリトリバーは試合の流れを維持し、ラリーの間にボールを転がしサーバーへ渡すことを任務とするスタッフをいう。

モッパーはフロアを清潔で乾燥した状態に保つことを任務とするスタッフをいう。試合開始前やセット間、必要に応じてラリー終了後にモップをかける。

●修正点 (2)

1. 付録(1)国内の大会に適用される特別競技規則の付則の1を削除し、以下の項目の番号を繰り上げた。
2. 付録(1)国内の大会に適用される特別競技規則の付則の中の小学生ルールに関する数値を削除した。
3. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。

2 9人制改正点・修正点

本年度は、チームの活性化の観点から、チームの構成において交代選手の数を『3名以内』から『6名以内』に改め、また監督は『監督制限ラインの後方ではラリー中も立ったままで、あるいは歩きながら指示をしてもよい』ことに改めました。

また、試合の継続性の観点から、公式記録用紙に記載されていない選手がコート上でプレーし試合中に発見した場合でも、直ちにそのセットを没収することなく、正しい選手に戻して試合を再開することに改めました。

更に、より分かりやすいルールとする観点から、表記の追加、修正等を行ったほか、公式記録用紙について6人制様式と表記の統一を図るため一部見直しを行い、これに合わせて公式記録記入法を改めました。

● 主な改・修正点は、次のとおりです。

第1 競技規則の主な改・修正点

1 第1条（競技場）について、

- (1) フリーゾーンのエンドラインからの広さを、「6.5m」に改めた。（第3項）
- (2) ウォームアップエリアの大きさを、「3m×3m」に改めた。（第5項）
- (3) 「監督制限ライン」を新たに加え（第6項）、「監督制限ラインは、チームベンチ側のフリーゾーンでサイドライン外側から1.5mの位置に、チームベンチの記録席側の端からエンドラインまでの長さでサイドラインに平行に設ける。」とした。

2 第4条（チーム）について、

- (1) 「チームは、9人の選手および6人以内の交代選手で構成する。」に改めた。（第1項1）
- (2) チーム役員を兼ねる場合であっても、「…選手の数は15名以内とする。」に改めた。（第1項4）

3 第5条（競技参加者の権利と義務）について、

- (1) 監督は、試合中、「…試合を妨害したり遅延させない限り、監督制限ライン（第1条第6項）の後方では立ったままで、あるいは歩きながら指示をしてもよい。」に改め、「ただし、ラリー中はベンチに座っていなければならない。（第5条第1項4）」を削除した。（第2項3(1)）
- (2) チームキャプテンは、試合終了後、「公式記録用紙にサインし、結果を承認する。」を加えた。（第3項5(2)）

4 第6条（試合前の準備）について、

- (1) 「…トスに勝ったチームキャプテンは、サービスをする権利（以下「サービス権」という。）か、サービスを受ける権利、またはコートのいずれかを選択する。」に改めた。（第1項1）
- (2) 「…または両チームが合同でネットを使用して公式ウォームアップをすることができる。」に改めた。（第2項1）

5 第13条（選手交代）について、

- (1) 選手交代は、「…ハンドシグナルを示し、交代するコート内の選手の番号を告げて要求しなければならない。…」に改めた。（第1項1）
- (2) 選手交代は、「…同じチームによる2つの別々の選手交代の間には、コート内の選手が負傷や病気（以下「負傷等」という。）した場合を除き、ラリーの終了がなければならない。」に改めた。（第1項3）
- (3) 交代選手は、「…負傷等した場合を除き、試合の再開後、1つのラリーがあった後でなければ、

再び交代してチームベンチに戻ることはできない。…」に改めた。(第1項7)

(4)「不当な要求(第14条第1項)による選手交代や…は、不法な選手交代とする。…」に改めた。
(第4項)

6 第15条(不法な選手がプレーしたときの処置)について、「…または公式記録用紙に記載されていない選手がコート上でプレーし、これを試合中に確認したときは、次のように処置する。ただし、次の2に該当する場合を除き、セットまたは試合終了後に確認したときは、そのセットまたは試合は有効とする。…」に改め、「…これをセットまたは試合終了後に確認したときは、そのセットまたは試合は没収とする。(第18条)」に改めた。(1および2)

7 第18条(セットまたは試合の没収)について、「公式記録用紙に記載されていない選手がコート上でプレーし、セット終了後にそれを確認したとき。(第15条2)」に改めた。(1(2))

8 第19条(ボールへの接触)について、「選手がプレーしたボールがネットにかかった場合でも、同一選手が続けて3回プレーしたとき(同一チームの2人以上の選手が同時にボールに触れた後を含む。)は、ドリブルの反則となる。」に改めた。(第4項2)

9 第30条(副審)について、責務に「…また公式ウォームアップ中にその試合に参加できる競技参加者を確認する。」を加え(第2項1(4))、「第1セットの開始前には、交代選手番号およびベンチに着席できる競技参加者も確認する。」を削除した。(同項1(5))

10 第31条(記録員)について、責務に「公式ウォームアップ中にその試合に参加できる競技参加者を確認する。」を加え(第2項1(2))、「…第1セット開始前には、交代選手番号も確認する。」を削除した。(第2項1(3))

また、試合終了後、「両チームキャプテンのサインを採録する。」を加えた。(3(2))

11 特別競技規則について、「日本スポーツマスターズバレーボール競技においては、チームは9人の選手および6人以内の交代選手で構成する。」を削除した。(改正前付則の6)

12 項の新設、削除等に伴う繰り上げ、繰り下げその他規定を整備した。

第2 公式記録用紙、公式記録記入法の主な改・修正点

1 公式記録用紙について、選手を記載する欄を15名に改め、交代選手欄を削除した。また、サービスのチェック欄の枠を3に改めた。

2 公式記録記入法について、

(1) サービスオーダー票から交代選手番号欄を削除し、「サービスオーダー票の交代選手番号は、交代選手欄に記入する。」を削除した。(改正前第1.2⑤)

(2) 警告等を適用したときは、「…選手番号(遅延の場合はD)、AorB欄に該当するチーム記号、セット欄にセットナンバー、得点欄に…」に改めた。(第1.3(5))

(3) 選手交代のときは、「交代する先発選手の番号の下欄(選手交代番号欄)に、コートに入った交代選手の番号を記入する。」に改めた。(第1.(9)①)

(4) 特記事項欄に記録する場合は、「…適用した事項/チーム/セット(両チームの得点)/その内容の順に簡潔に記録する。」に改め(第1.3(11))、これに合わせ記載例を改めた。

(5) セットが終了したとき、「…また、先発選手でない選手の番号は交代選手欄に記入する。ただし、例外的な選手交代を行った場合等、そのセットに出場することができない選手の番号は記入しない。」を削除した。(第1.4(5))

(6) その他表記の見直し等規定を整備した。

3 ソフトバレー改正点・修正点

●本年度の改・修正点

- 1 改正点 なし
- 2 修正点
 - (1) V プレー上の動作と反則
 - 4 ブロック
〈オーバーネット〉に反則でない場合の図解を追加した。
 - (2) II 公式ハンドシグナル 〈第2図 主審と副審の公式ハンドシグナル〉
 - 1) フットフォルト⑮の適用条項を修正した。
 - 2) タイムアウト⑳の要求したチームを示す腕を修正した。
 - (3) 字句と数値の修正をおこなった。
 - 1) V プレー上の動作と反則1 (3) 3)・4) の末尾 (フットフォルトの反則) を修正した。
 - 2) 付則 審判員とその責務および公式ハンドシグナル
 - I 審判員とその主な責務の注解を修正した。

4 ビーチバレー改正点・修正点

● 修正点

- 1 9.1.2.4 相対するチームの2人の選手がネット上で同時にヒットした後、そのボールがアンテナに当たった場合、ラリーはやり直しとなる。
- 2 第6図 a 軽度の不法な行為に対する警告について、罰則の段階表に追記した。
- 3 22.3 主審の責務
 - 22.3.2.3 e) サービスボールや3 回目のヒットされたボールが主審側のアンテナ上方や外側を通過したとき。
- 4 23.3 副審の責務
 - 23.3.2.7 サービスボールや3回目のヒットされたボールが副審側のアンテナ上方や外側を通過したとき。
- 5 付則1に特別競技規則として監督に関する「国民体育大会の適用」について規定した。
- 6 付則の2に圧迫用サポーター (コンプレッションパッド) の取り扱いについて明記した。
- 7 付録(6)に【コート設営の手順】を追記した。
- 8 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。